

見学レポート：石蔵カフェ

○施設概要

- ・所在地：栃木県宇都宮市道場町 1131
- ・運営主体：公益社団法人 認知症の人と家族の会
- ・併設施設：生きがいサービスセンター（デイサービス）と隣接している。
- ・利用者数：1回平均 30人 多い時は 50～60人
年間 1000人(2015年)
- ・どんな人が利用しているか
一般の方、ご本人、介護者、専門職の人
地元だけでなく県外からも来る。
- ・スタッフの構成と人数
認知症の人と家族の会の会員と認知症本人
調理は 5～6人、サポーターが 1～2人。
- ・活動内容
手作りのケーキや食事の提供。
花見などの外出もあり。

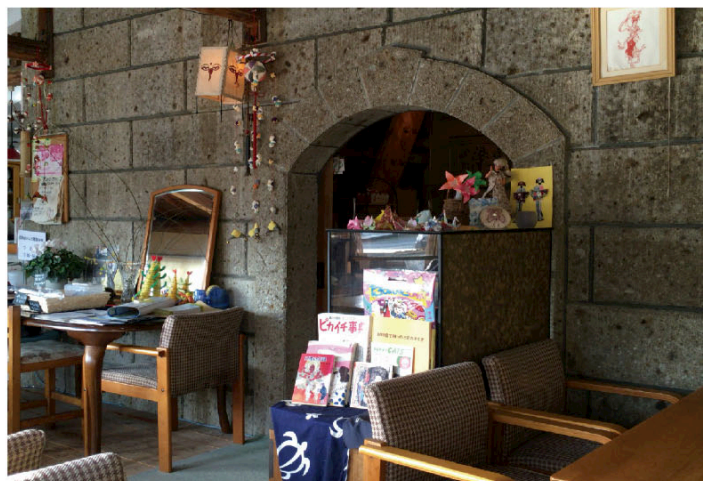


○運営について

- ・運営での課題と解決策
運営資金の確保が課題である。運営資金の確保の仕方は、認知症の人と家族の会の会費、お客さんの食事代(ランチ 500円、ケーキセット 300円)、寄付品を売るなど。儲けようとしたら難しいので事業としてやるのは困難。
- ・周辺地域との関わり、連携
地域住民から農産物を寄付してもらったり、音楽会を開いてもらったりしている。
- ・福祉転用で大変だったこと、また解決策
空き家だったため家具や空調がなく用意するのが大変だった。家具は皆が持ち寄ることで集まった。空調は行政によって用意された。



テーブルと椅子はホテルからの寄付品



寄付された人形や絵、飾りなど

○企画・構想について

- ・設計者

とくにいない。

- ・事業をはじめた動機とその経緯

認知症の人の居場所を作りたいという思いからはじまった。本人の潜在的な能力を発揮してもらい、少しでも働けるように支援することで、充実した生活を送ってもらう。

最初は第2木曜日(11:30-15:00)だけの開設だったが、仕事で行けない人が日曜日の開設を依頼し、第3日曜日(13:00-16:00)も開設するようになった。

- ・どのような理念や考え方で行われているか

ここでは認知症を特別なものだと考えない。世間の認知症のイメージを変えたい、認知症本人の声を世間に届けたい、「福祉」ではなく「普通」でありたいという理念で運営されている。

- ・今の場所、建物を選んだ理由

一番の理由はたまたま使っていなかった空き家を家主が提供してくれたから。送迎のために駐車場は必須だと考えていた。

○計画・設計について

- ・計画や設計の時に配慮したこと

他の福祉施設とは違い施設っぽくしないことで、落ち着いた雰囲気作りをすることで長居したくなるような空間にした。

あえてバリアフリーにしないことで会話のきっかけができるようにした。

(「そこに段差があるよ」と注意することで会話生まれる。)

- ・家具選びと配置で気をつけたこと、外装と内装でこだわったこと

落ち着いた雰囲気作りのために、家具は茶色いものを選び、内装は石の蔵や天井の木をそのまま見えるようにした。家具や絵、人形などは寄付してもらったものを使っている。

○まとめ

認知症という病気は人に相談しにくい病気であり、一人で抱え込んでしまい閉じこもりがちになる。また介護をする施設では、介護者への配慮から通わなくなる人もいる。石蔵カフェでは認知症を特別視しないことで認知症本人にとって居心地のいい場所となっている。石蔵カフェは認知症が一般的になることを目標にしている。



温かみのある木の天井



落ち着いた雰囲気のトイレ